

あたららしい政権で 日本再生！

新型コロナウイルス感染症の拡大と、度重なる豪雨災害により、多くのみなさまが先行きへの不安を抱え、苦勞を強いられておられると推察します。危機管理対応の重要性がことさらに問われる中で、安倍政権の対応は不十分を通り越して、迷走、無責任と言える様相を呈してきました。

都内では再び急拡大しつつある新型コロナ感染者への対応や支援体制づくりが急務。地元・府中市でも、昨年10月の台風19号により破壊された多摩川護岸の復旧・治水対策が、来たる台風シーズンに向けて急がれます。

この危機的状況の中、これまで培った経験を生かし「コロナ禍や災害で傷ついた日本社会を立て直す」という大きな命題に全力で取り組む決意を固めました。

安倍政権は、森友・加計問題や「桜を見る会」問題、参院選広島選挙区での巨額選挙違反事件など、内閣総辞職に値する問題を次々に起こしています。私の地元・府中市でも、官製談合に関与したとして市幹部や市議らが逮捕、起訴される事件がありました。

私が国政選挙に初挑戦したのは、1980年当時のロッキード事件に象徴される「政治と金」の問題を無くしたいと決意してのことでした。その時のスローガンは「政治に市民常識を！」。もう一度、公正で正直な、市民の常識が通じる政治を取り戻さなければなりません。

総理時代に官房長官として支えてくれた立憲民主党の枝野幸男代表が、野党を大同団結し再び政権を奪還するために奮闘しています。今こそ「あたららしい政権で日本再生」を行うべき時です。私も経験を生かして力を尽くします。

みなさまのご理解をお願い申し上げます。

(2020.8.1 談)

● **さんに聞く** ● 政策は裏面

● 特集 ●

かん 菅直人 衆議院議員/第94代内閣総理大臣

RIKKEN MINSHU
号外
東京18区版
府中市・小金井市・武蔵野市
2020.8.7発行号

立憲民主編集部
〒102-0093
東京都千代田区平河町
2-12-4 ふじビル3F
Tel. 03-6811-2301
Fax. 03-6811-2302
goiken@cdp-japan.net
<http://cdp-japan.jp/>

立憲民主
The Constitutional Democratic Press

● 立憲民主党 東京18区総支部長 菅直人さんの主張・活動などを紹介します。
● 連絡先：立憲民主党東京都第18区総支部
〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-2-9-302
TEL.0422-55-5500 FAX.0422-55-7768
mail : kan-naoto@iris.ocn.ne.jp

未来世代に安心して手渡せる日本を創る。

●教育無償化で若者の未来を拓く

未来を担う若い世代のために何ができるか。民主党政権時代に実現した高校授業料無償化は、若い世代の学びを社会全体で支える施策でした。最近は大學生の奨学金問題に心を痛めています。

現在、大學生の2人に1人は、就職後に返済義務のある奨学金を受けています。大学の授業料が高騰し、親の負担だけでは賄えない家庭が増えているからです。親の世代の経済格差が、子の世代に連鎖しています。それに、奨学金とは事実上の「学生ローン」で、貸付総額は9兆5千億円に上ります。社会に出た時点で何百万円もの借金を背負うのでは、結婚の遅れや少子化の原因ともなりかねず、将来に明るい展望は開けません。

「返済が必要な奨学金制度」は抜本的な改革が必要です。若者たちが奨学金という名の学生ローンに頼ることなく大学に進めるよう、全力で取り組みます。



▲党企画の「逆転!? おしゃべり教室」で、学生の「先生」から奨学金問題の深刻さを学ぶ。

●介護サービスのさらなる充実を

高齢者の介護を家族任せにせず、社会全体でサポートする介護保険制度。これは、私が厚生大臣だった1996年に、幅広く議論を重ねて法案を練り上げたものです。制度創設から今年で20年になりますが、今や社会になくしてはならない制度となりました。私や立憲民主党が目指す「お互いさまに支え合う社会」の象徴とも言える制度ではないでしょうか。



▶厚生大臣として、欧の高齢者福祉の実態を視察。個々を尊重する福祉住宅など、制度設計の参考に。

しかし、今なお介護サービスの供給は十分ではありません。介護職員への報酬も低く、常に人材不足。このため、親の介護のための「介護離職」が後を絶ちません。家族にとって大きな負担になるだけではなく、働き盛りの人が仕事を失うことは、社会経済全体にとっても大きな損失です。

介護保険制度をさらに充実させることは、制度づくりに関わったもの責任だと考えています。

●技術国家・日本の復権を

私は理系出身の政治家で、同時に特許を扱う弁理士でもあります。だからこそ、日本が工業製品の製造を中国などのアジア各国に依存するようになったり、特許の出願件数や内容が中国に追い越されたりするさまに、危機感を抱いてきました。

人件費が相対的に安いという理由で、日本は工業製品の製造を中国などに依存し続けて、その結果、技術的にも中国に追い越されたのです。空洞化した日本の製造業を本格的に立て直すことが急務です。

中学、高校の先輩であるノーベル賞学者・本庶佑さんに「著名な研究者への多額の助成もよいが、少額でもできるだけ多くの若い研究者に研究費が回るようにしてほしい」との、重要な指摘を受けました。「工業国家・技術国家日本」の復権のため、日本の基礎研究の充実に尽力します。



▲宇宙飛行士の野口聡一氏と会話。「子どものころはロケットに乗るかつくったこと思ってた」と明かした。

●原発ゼロと自然エネルギー促進で経済成長と雇用拡大を

私が総理として直面した東京電力福島第一原発事故から、来年で10年になります。あの時に感じた「日本という国が成り立たなくなる」という恐怖は、今も忘れることはできません。この間、私は日本国内だけでなく世界の多くの国に招かれ、当時の体験を語るとともに、2度と事故を起こさないためには「原発ゼロ」しかないことを訴え続けてきました。「原発ゼロ」の実現は、総理としてあの事故に対峙した私の、政治家としての使命です。

東京電力管内では現在も原発は1基も稼働していませんが、現実に電力不足は起きていません。また、原発に替えて、例えば農地を利用して営農と太陽光発電を両立させる「ソーラーシェアリング」を普及させるなど再生可能エネルギーの促進を図れば、経済成長や雇用拡大も見込めます。今や「原発ゼロ」は経済対策でもあるのです。このことに1人でも多くの方の理解を得られるよう活動していきます。



▲3.11 東日本大震災対応に尽力した数カ月間、総理の制服は防災服だった。



▲農地の上に太陽光パネルを設置したソーラーシェアリングの現場を視察。

私は政治家としてずっと「最小不幸社会の実現」を訴えてきました。幸せの形は人それぞれですが、不幸の形は病気や貧困、失業など、ほぼ同じ顔をしています。自力では避けられない困難な状況＝不幸を少しでも小さくすることが、結果として多くの国民の幸せにつながる。そういう考え方で政治に向き合ってきたのです。コロナ禍で国民のいのちと暮らしが脅かされている今こそ、私が目指してきた「不幸を最小にする」政治が必要だと感じています。

(談)

菅直人(かんなおと)のプロフィール

※ 1946年 10月10日山口県宇部市生まれ／本籍:岡山県。高校2年の時、サラリーマンの父の転勤に伴い東京へ。都立小山台高校卒。東京工業大学理学部応用物理学科卒。`71年 弁理士試験合格。`74年「出たい人より出したい人を」と、参院全国区選挙に仲間と当時81歳の故市川房枝さんを担ぎ出し、選挙事務局長。カンパとボランティアによる市民選挙で当選させる。

※ 1980年 3度の落選を経て衆院選にトップで初当選(33歳)。`93年 40年ぶりの政権交代を実現、連立与党に参加。「新党さきがけ」政調会長を経て`96年 厚生大臣。介護保険制度導入に尽力し、薬害エイズの真相究明と和解を果たす。同年、鳩山由紀夫氏らと民主党を結成、代表に。2009年 民主党政権が実現、副総理。`10年 財務大臣を経て第94代内閣総理大臣に。`11年 総理として東日本大震災と福島原発事故対応の陣頭指揮にあたる。

※ 総理退任後は原発ゼロと自然エネルギーの普及に向けた活動に尽力。`17年 立憲民主党結党に参画。13期連続当選。

※ 現在、立憲民主党最高顧問。衆議院議員40年の軌跡はコチラ▶

※ 妻、猫2匹と暮らす。孫3人。芋焼酎片手に囲碁・将棋のネット対戦を楽しむ。

